

図書委員や地域と連携をし、生徒の読書への意欲を高めた事例

学校名 新座市立第二中学校
所在地 埼玉県 新座市 野火止 7-1 7-1 0
電話 048-477-1212

1 本校の概要

全校生徒は1013名であり、3年生が9学級、2年生が8学級、1年生が9学級、そして、特別支援学級が4学級という大規模校である。「『多様な育ち』を前提とした学校システムの再構築」を研究主題とし、安心して登校したいと思える学校を目指して日々教育活動に取り組んでいる。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ a 読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・ d 家庭や地域との連携

(2) 実践の概要

ア 朝読書の実施

毎週金曜日8:30～8:40の10分間で朝読書を実施している。全クラスにその学年に応じた学級文庫を置き、さまざまな本を読んでもらえるよう取り組んでいる。

イ 地域の方による読み聞かせの実施

地域の方に協力していただき、毎週学年ごとに紙芝居や絵本の読み聞かせをしていただいている。そして、その日読んだ本の内容や歴史などが書かれている「図書だより」を生徒に配布している。



ウ 図書委員会の活動

- ・ 図書室の魅力を伝えるポスター掲示
図書室の魅力を伝えるポスターを作り、クラスや図書室に掲示をし、図書室を利用したことがない生徒にも魅力が伝わるように取り組んだ。



- ・ 図書委員の有志による短編集の作成
同じ中学生が作った短編集を読むことで、普段の読書とは違った楽しみができるだろうという考えから短編集の作成を行った。



- ・ しおりの制作
しおりを自由に持ち帰ることができるようにし、そのしおりを使って読書がしたいと思ってもらえるようにしおりの制作を行った。



3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 図書だよりの発行や図書委員の取組により、本に対する興味・関心が着実に増えてきている。

(2) 課題

- ・ 学校が大きいので、図書室が教室から遠く気軽に足を運べていない生徒がいる。また、図書室の使い方が分からず、利用しない生徒もいる。より一層生徒の足が向く魅力ある図書室づくりが求められる。

(3) おわりに

今年度から、週3回の朝読書を週1回にしたため、子どもたちが本にふれる機会も減った。しかし、そのような状況の中で、いかに生徒たちに本を手にとってもらい本の良さに気付いてもらえる活動をするかを大切にしてきた。今後もより工夫した活動を行い読書活動の推進を行っていききたい。